

ぼくのノオト

⑤1 未来を託すのは

日本は資源に乏しい。そんな時代のプロパガンダの下、この国は我先にと突き進んできた。何のことはない、油がないというだけのなし。生きた土地と海、目の前にある清らかで豊かな自然の資源をむさぼってきた。土や海と共に生きてきた人たちは、それを知っている。

大人が失った、子どもたちのしなやかな発想や様々な能力も、社会の資源・財産といえる。日本では、児童生徒の自殺が増え続け、年間五百人に達する。一件の重大事故の背景には、二十九件の軽微な事例と、三百件の事故寸前の事案がある。そのハイリッヒの法則にしたがえば、五百の背景には一万五千の未遂があり、十五万の子どもたちが追い詰められていることになる。それが今この国の、隠せない現状。

日常から逃れ、会津のマッターホルン・蒲生岳の頂で、そんな日常の現実を想う。



認定NPO法人 いわき放射能市民測定室

たらちねクリニック

院長 藤田 操